

現実空間を“体感”

360度VR実写動画

早くからVR(バーチャル・リアリティ)に取り組んで蓄積した撮影ノウハウと、
ドキュメンタリー番組制作で培った取材力・ストーリー構築力。
NEPの強みを活かした、360度実写VR動画を制作します。



360度VRカメラによる撮影の様子

世界的建築家・隈研吾氏の依頼を受け 代表作の360度実写VR作品集を制作

まるでその場にいるかのように空間を“体感”できるVRにNEPはいち早く取り組み、さまざまな企業のVR映像を制作。カメラを据える位置が10センチずれるだけで見え方が大きく変わる、VR撮影のノウハウを蓄積してきました。

そんな“職人技”的な撮影技術に加え、『NHKスペシャル』などのドキュメンタリー番組を手がけるNEPが得意とするのが、ストーリー性のある360度VR実写動画です。

世界的建築家の隈研吾氏から依頼を受け、代表作を360度VRカメラで撮影・制作した『隈研吾VR作品集』もそのひとつ。国内外で話題となり、注目を集めています。

隈研吾VR作品集

建築家・隈研吾さんの代表作を、ご本人の解説つきで立体的に体感できるVR実写動画作品集。オンラインで無償公開し、建築を学ぶ世界の若い世代に教育コンテンツとして活用されることを目指す、世界でも先進的な取り組みです。

VRなら世界中の若者がバーチャルに体験して学ぶことが可能。次世代の新しい建築観やイノベーションが生まれる可能性も秘めています。

第1作「東京大学大学院情報学環ダイワユビキタス学術研究館」

第2作「高輪ゲートウェイ駅」

第3作「TOYAMAキラリ」

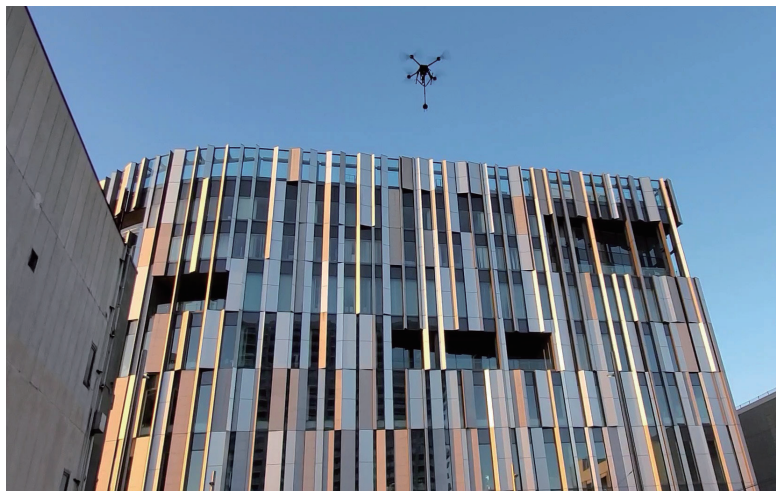
第4作「ところざわサクラタウン」

続編も準備中

撮影技術力とストーリー構築力が ハイクオリティなVR動画の鍵



『隈研吾VR作品集』制作発表記者会見での隈研吾氏。手にしているのがヘッドマウントディスプレイ



第3作『TOYAMAキラリ』をドローンで撮影中の様子

ヘッドマウントディスプレイを着けて、没入感とともに、上下左右360度好きなところを自在に見回せるVR。

VRの実写動画制作には、実践的なノウハウが不可欠。たとえば、VR撮影ではカメラの位置がたった10cm違うだけで見え方がまったく違います。引きすぎるとインパクトのない画になり、迫りすぎると映像が歪んでしまいます。NEPは早くからVR撮影に取り組み、試行錯誤を繰り返しながら、常に最適な撮影を可能にする技術を積み重ねてきました。

撮影には6枚のレンズを搭載した8K360度カメラを使用し、“継ぎ目”がない映像を実現。リモコンによる遠隔操作で、カメラマンも映り込みません。

そして、質の高い作品にするために重要な鍵となるのが、NHKの番組制作で培ってきた撮影技術力と取材力、ストーリー構築力。『NHKスペシャル』や『プロフェッショナル 仕事の流儀』、『プロジェクトX』など、数々のドキュメンタリー番組制作を手がけたスタッフがチームを組み、NEPの総合力を発揮することで、ストーリー性がありつつVRの視覚的特性を十二分に生かしたコンテンツ制作が実現します。

また、360度VR映像は一般の平面的な動画に変換してプロモーションビデオなどに活用できます。1回のロケで撮影した映像がマルチユースでき、用途は大きく広がります。

5Gの普及などでVRがより身近に 観光や教育や研修にも

今後、5Gの普及や、軽量化した次世代ヘッドマウントディスプレイの開発とともに、VRはさらに身近になっていきます。これまでVRは、主にエンタメ分野が牽引役となってきましたが、現実空間を疑似体験できるというVRの特性は、名勝や文化遺産などを広く一般に紹介する観光コンテンツに最適です。

また、企業でもオンライン研修のツールとしてVRの導入が活発化するなど、“新しい生活様式”を背景にした新たな用途の広がりも期待されています。